



東海
道中
藤栗毛二編

四
下

^ 13
3286
4



門 へ 13
 號 3286
 卷 4

昭和十六年一月十一日
 尾野貴英氏 贈

道中

道中膝栗毛後編 申

此篇の末本海軍少将の名のなき人足踏の

出るころ中。山八をこゆるきーのそびて司馬路

せんちもつてはゆうききつことめいそめてるん

逢しよきうアヤちひのままート

くしよのいしよの中へあうらうとあまのいしよ

てはらの女ごんごんごんごんごんごんごん

へも一せんいしよートまるとらるるの中ゆ

んてまぬがのいしよけ。あまのいしよとせんとあま

てぬらひりつてやうとてまをわけておまは

ハコウまきやさんごらよ、木ちん宿ハ移入カノ、^{ホニ}アイ

むうのよみわりのうちよ、^{ホニ}アイおせハトおくられる

ハトおめんわせ入ト、^{ホニ}おくられる、^{ホニ}おくられる、^{ホニ}おくられる

とまがれつらひよりのまんが、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

まはまじらとらひよりのまんが、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

おつらまじらとらひよりのまんが、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ハハハハのむじとちおいづつとま、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

のま、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

おのま、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

ませ、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある、^{ホニ}ある

そしてまぢらひ石ころぎのーしやうまうまう
後ちうがもめくわうぐえぶらうたがくがまんのも三合
むう斗やアあひんをいそくはけしひのま
トあひんをいそくはけしひのま
どー合のまをいそくはけしひのま
とまをいそくはけしひのま
とまをいそくはけしひのま
どのまうごうまうまうまうまうまうまうまう
あひんをいそくはけしひのま
アひのまをいそくはけしひのま

やあ人といふりちアをまはるがまなくちや。ゆりち
あけなもあひん何してなづ改まアあひんやアまのま
がア。まのまはあひんトまのまのまのまのま
あひんまのまのまのまのまのまのまのまのま
日あまくまばるくま風のまのまのまのまのまのまのま
あひんまのまのまのまのまのまのまのまのま
ひま神まくままのまのまのまのまのまのまのま
りまーままのまのまのまのまのまのまのまのま

あつぎのこゝろをいひしものツ仕入とていふものなり
コレアノ...
もういふものいふ...
またいふ...
たづね...
この...
くらひ...
感ふるも...

この...
あつぎ...
この娘ハ...
アガ...
この...
あつぎ...
あつぎ...
あつぎ...
あつぎ...

さへむのぐはぶれやん ト子にさうらうはなをさしたつちを
よもかけはたあつたのたをさく
あねさるど たが サアらんをさぐら志あのみせ内ぐぐり
あてうひて

せをいろうましと 嘸風の女のまうへちとへあがひて
移まきとぶい ト九ツたうごととちのへりてまあんぬのむきあ
うれそあぐるよにねん友のうちより法候

みど出しうがうあるのあやぢもよんぬのもうまえらるる
かんのやあをいひをうのりうりのまをこりけて移る

山俊うりのよみ ね ちうも ね ちうも ね ちうも ね ちうも

逐ア 唯れぬ ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

おひしまし ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

とあま ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

おめ ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

姫と ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

うらぐちをかうま候とぬりのこびいさひをらしの
ちあを移る

た ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

と ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

ハ ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

ス ね ちあ ね ちあ ね ちあ ね ちあ

村のよしとまきと八とくちまきとあいども
あうりなるくまるとやえとさうあうと

くやアグのてきさかアハ ぼ登のやあめいさよつ
ちんやまごううかあーふゆる時ちやア版の中へ
まろいさかやてくちやアグのそれふあんどくハア
ううとカるとむせうま字とまぢあう人のイヤ集
級とさうぢれのといらくを戯とほまやアグの
ううとあーこの体段ははあうといやアグのとも
くハあめり業さしるどくまごいん火をめてん
おあせん アレくおまい ちやアおまごころおまごくらハ

いんはあめり業さしるどくまごいん火をめてん
おあせん アレくおまい ちやアおまごころおまごくらハ
二つてのせとどけりおまごくらハ アレくおまい ちやアおまごころおまごくらハ
ぼ登のやあめいさよつ アレくおまい ちやアおまごころおまごくらハ
まろいさかやてくちやアグのそれふあんどくハア
ううとカるとむせうま字とまぢあう人のイヤ集
級とさうぢれのといらくを戯とほまやアグの
ううとあーこの体段ははあうといやアグのとも
くハあめり業さしるどくまごいん火をめてん
おあせん アレくおまい ちやアおまごころおまごくらハ

めしひまきとまいたしちがぞれくくしまいなる
くるくとし船ハまのくくで舞がいこまむくちと
ありてお休るさな海でもあがるなる海も入ら
ちゅうあげませむくもくさひやうめく白あ十
くねて浪なまづへくるとさなめのきあくまでおきでと
さいづが早ーぐるふを孫まきとくく糸ふまくとどて
なまていりまゆれ、鼓ちんハ早ーがをせまむせうと
又面白くでくねてあんならものよるまもあつ

めんとーいんちのちよといんちくはなやーのちん
いんちくさうとあるまきさういんちくハハも大さうな
入あむむしよるいんちのちよとく生傳る町は名とくりてそれ
よりゆきつちんハのくさういんちくおんまのさうくさのひたまは
いんちくせしてゆきんくういんちくもくさひんちくさひんちくあひんちく
まけこまんとまけハかろういんちくもくさひんちくもくさひんちく
活三目二にねていんちめいんちくくさうくニ十所くやん見え
おひらねていんちくがさのちのちうと孫いんち女いんち龍川乃
うかてとさういんちくまむく孫いんちまうく廿二の河たけ
もあつるまむとわんさうくともく住てわけまむさう
ていんちくくいんち鬼いんちおのこでまむもまきりく

影^{かげ}て夜^よより立^たて居^ゐるよお打^{うち}集^あゆくやどふかの等^ら遊^{あそ}ぶ
川^{かわ}ま^まち^ちの^の入^いる^るが^があ^あべ^べ川^{かわ}流^{なが}る^るの^の身^みた^たの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
ま^まに^にい^いて^て大^{おほ}門^{かど}あ^あり^りま^まの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
ん^んの^のま^まの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
祭^{まつり}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
お^おの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
か^かの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす

あ^あの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
つ^つま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
か^かの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
て^ての^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
向^{むか}ふ^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
山^{やま}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
か^かの^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
往^{むか}ふ^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす
て^ての^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす^すと^とあ^あり^り廊^{らう}の^のま^まの^のま^まを^をあ^あら^らわ^わす



まあちまのちあがのほ

ハの内は...の三へくやうてうつれらる

いづれが今のみがくふかさうまきと

とまきとそへ格ちるに後ハこのこやまきと

ついでにリッ。度でん見よひつをさふりらうねくえ

こ若者ふ合を格ちあといふ任もあづじい

るるあひちらんごう。あへ川のあえとんりそが二舞の

くー紀のまやの表こりよりのごの

大だいのこらまてまむのままぬのこ

でもちざうまーのりやア性性の目るい

けでほれてまのいぞちざんまき

らうとくー

あまのいんぞがのいんちんくた

ていぞくたのいんちんちんちんちん

いもまのいんちんちんちんちん

いんちんちんちんちんちんちん

いんちんちんちんちんちんちん

川やぶのちびでいんの跡をいってさうアの
とアなれで。アニイの夏の光を女おん種くちやあし
らアありし日夫さるうけてまづい公志やアおざら
らひやアいあめをぬでもてはしやの光止さんか
別居ていってさうアちびひおざらまらへへア
ハイをんごさうアあさんぶづつちくさるやアせ
てのくちへ。ト志をぬくさうアの用のあひさるくさ
らちくけとつまごあけさるくさるくさるくさる
さうくさるくさるくさるくさるくさるくさるくさる
よおくちぶらまらこようナまらこらひん。お

さうくさるくさるくさるくさるくさるくさるくさる
もハイは肉でおん種くちくといふぬか女あてまざい
まらとへるアお種をるくさるくさるくさるくさる
さうの光くさるくさるくさるくさるくさるくさる
くさるくさるの光くさるくさるくさるくさるくさる
目くさるくさるくさるくさるくさるくさるくさる
んさくさるくさるくさるくさるくさるくさるくさる

どてあげさあいまー トと夜の二丁三丁
フダガことおしー 21 セン
ヤアまぶごーうらあふーモウそれたうーアハイ。あぶご

うこふびんがそごらあやアあいのつるてくれがまごら

コレカあるヤアーそねごートおんあをささぐまりて。
まげろをよてあふふろに

とつきてヤアーあぶごめあつてアア
トをよろ中

あふのていうくあれどもあふあふ
あふくを海に少入のをうのをよせ

あぶごよろあぶごあふアアささぐてうどあふ年のをる

つぬが中田やの務山よあぶごあふと用あふあふあふ

あふあぶごうささじあ トト四丁のモウあふあふ
りのあふーモウあふあふ

せご。トトあふあふトトあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

友誼

ころげて 舞とりの山のふもと

かぶのきくの一かきやうやぶるまきと一ヤ、あちらや
りふりよ、さあやアさう後入一火井戸のふもと
まーさるむさん川が流るやーさうさやうでいひ
まきとさるへお出るさめでもお入るが又のり
作田と友枝よおしやうでさうまきとさうある
さるのおやうさうませぬ先をさるへおとさう
おさるまきとさるさうさうさうさうさうさう

おさるまきとさるさうさうさうさうさうさうさう
お依

トキウサウサウサウサウサウサウサウサウサウ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さるまきとさるさうさうさうさうさうさうさう

あーさ出来さうさうさうさうさうさうさう

先きのさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

道中膝栗毛後編

